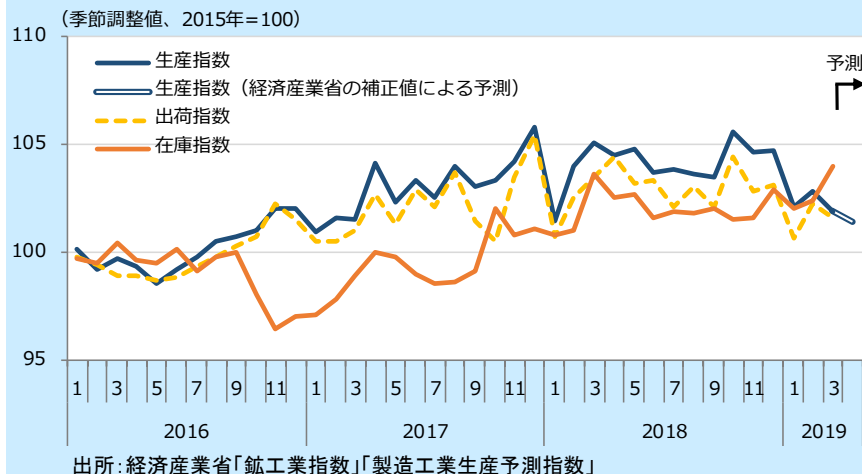


日本：鉱工業生産指数（2019年3月）

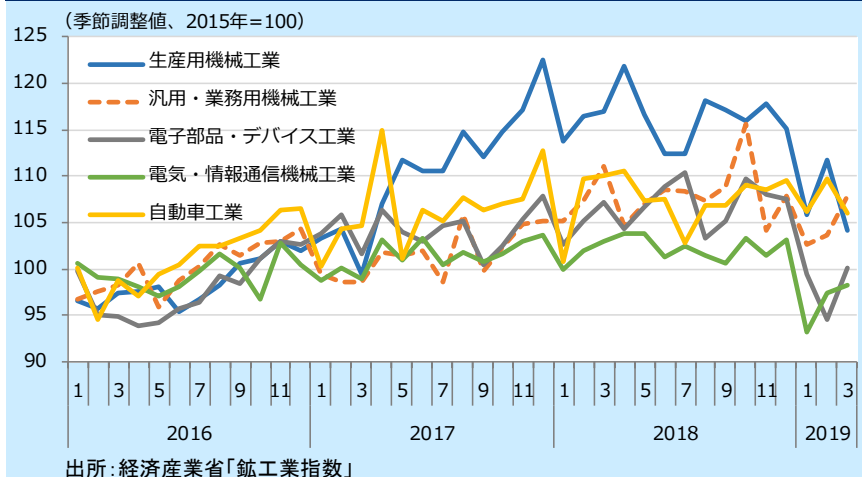
—輸出の減少を背景に、生産指数は低下傾向が継続—

MRI Daily Economic Points
April 26, 2019

鉱工業指数（生産・出荷・在庫）



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 3月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲0.9%と、2ヶ月ぶりに低下。四半期ベースでも、19年1-3月期は前期比▲2.6%と、消費税増税後の反動減の影響を受けた14年4-6月期以来の大幅な低下となった。
- 業種別にみると、15業種のうち7業種が前月比で低下した。特に生産用機械工業(同▲6.7%)が大幅に低下。生産用機械工業は、中国などアジア向け輸出の減少を背景に低下傾向が続いており、18年後半から累積で約▲10%低下した。また、自動車工業(同▲3.4%)が2ヶ月ぶりに低下し、全体を押し下げた。
- 一方、世界的な半導体関連需要の調整により低下が続いていた電子部品・デバイス工業(同+5.8%)は、5ヶ月ぶりに上昇に転じた。また、19年1月に大幅に低下した電気・情報通信機械工業(同+0.7%)も小幅ながらも2ヶ月連続で上昇した。ただし、どちらも18年後半に比べると低い水準にとどまっている。
- 製造工業生産予測調査によると、19年4月の生産は、前月比+2.7%の上昇が見込まれている。しかし、予測値に対する実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値によれば、同▲0.5%程度の低下となる。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、中国などアジア向け輸出の減少や世界的な半導体関連需要の調整を背景に、18年後半以降、低下傾向にある。
- 先行きは、国内では消費税増税前の駆け込み生産が予想されるものの、輸出は米中経済の減速や半導体関連需要の調整などを背景に緩やかな減少が予想されることから、横ばい圏内での推移となろう。
- 生産の下振れリスクとしては、①中国をはじめとする世界経済の一段の減速、②日米物品貿易協定(TAG)の交渉による対米輸出環境の悪化、が挙げられる。